

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 5 rows: 事業所番号 (0191600055), 法人名 (株式会社ティーシーエイ), 事業所名 (グループホーム巴新町), 所在地 (檜山郡厚沢部町新町115), 自己評価作成日 (6月1日), 評価結果市町村受理日 (令和4年8月29日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0191600055-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部), 所在地 (札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階), 訪問調査日 (令和4年7月4日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・高齢者の尊厳を守りつつ、安全に配慮している
・入居者の個性を大切にし、本人の意思をできる限り尊重し、支援している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、道南の檜山郡厚沢部町の市街地にある平屋建ての1ユニットのグループホームである。近隣に役場があるなど利便性のいい地区である。2013年6月に開設し、デイサービスも併設している。法人は、介護保険制度が始まった2000年に同町で24時間365日の訪問介護事業所を開設し、現在に至っている。法人本体は、全国展開している人材派遣事業会社で、介護事業は同町のみで他に2ユニットのグループホームがある。当事業所は、ウッディスタイルの造りで、地域の自然な環境に溶け込んでおり、隣接して有料老人ホームがあり、災害訓練は連携して行っている。事業所内の床も木フロアで統一している。玄関に入ると左側が居室で、右側に事務所と休憩室、居間と食堂があり、利用者は殆ど居間で寛いで過ごしている。外国人介護技能実習生も受け入れており、厚沢部町の認知症介護の支援事業所として、今後も期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取組の成果 (1-4), 項目, 取組の成果 (1-4). Rows 56-62 describe staff/user satisfaction, 63-68 describe family/employee satisfaction.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングなどの場で、定期的を確認・共有している	事業所の理念は、事業所内に掲示し、利用者や家族にも周知するよう努めている。職員は、ミーティングで、定期的を確認し共有して、実践につなげている。	理念は、職員間で定期的にミーティングで確認し共有しているが、地域密着型サービスの事業所としての項目も加えることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会に加入 ・開催があれば、高齢者スポーツ大会に参加 ・地域ボランティアの受け入れ	町内会に加入し、高齢者スポーツ大会などの行事に参加しており、地域のボランティアの受け入れも行っているが現在は、中止となっている。隣接する有料老人ホームと合同でひな祭りなども開催して交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、施設広報誌などを通じて情報を発信している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議でちょうどいい意見・感想の記録を残し、職員間で共有している	運営推進会議は、新型コロナウイルス感染症対策の為、休会していたが5月から再開しており、地域包括支援センター担当者や社会福祉協議会担当者、民生委員、町内会長などが参加して、情報交換や意見交換を行いサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を活用し、包括支援センター担当者へ報告・相談をしている	運営推進会議に地域包括支援センター担当者や社会福祉協議会担当者、民生委員などが参加して、定期的な情報交換しており、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会等を活用し、理解を深めている。事例はないものの、入居者本人の安全を最優先するという共通意識も共有している	身体拘束をしないケアについては、身体拘束をしないケアの指針やマニュアルを整備し、研修会も定期的に行って、身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、身体拘束廃止委員会等の設置をしての事例の検討会までは行っていない。	事業所内に身体拘束廃止委員会等を設置して、3ヶ月に1回の事例検討会を実施し、職員間で身体拘束をしないケアへの具体的な取り組みを行う事を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等を活用し、職員間でケアにばらつきが出ないように相互確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事例はないが、勉強会のテーマにするなど、より理解を深める機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明不足にならないように心掛け、また、一方的に話さず、ご家族のお話も伺うように注意をしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族への各種報告をする際、意見を伺うようにしている。また、重要事項説明書には「苦情相談窓口」の案内を記載している	ホーム便りを2ヶ月に1回発行し、家族へ利用者の生活状況や運営状況の報告をしている。玄関に意見箱を設置して、家族からの意見や要望を聞く機会としているが、殆どは来訪時や電話にて聞き取り、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングを活用し、意見を募っている	職員会議は月1回行っており、職員の個人面談は必要に応じて随時実施しており、職員からの意見や提案を聞き運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特別な事情が無い限り、勤務希望については、希望通りに調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングの際の勉強会、代表者による個別面談を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	近隣地域が対象の研修会などへの参加を促している		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時、本人・ご家族から要望を伺っている。日常生活を注意して観察することでケアプランに反映させている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始後も、ご家族への必要な報告をする際、要望等も伺っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時、本人・ご家族の意向を聞き取り、確認している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存機能を活かし、衣服の着脱や簡単な家事等、できることは行ってもらう。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・病院受診報告等の電話連絡にて、日々の生活状況などを家族へお伝えする。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者さん同士で、昔の友人や思い出話をされている時に、職員も加わり、出てきた情報を共有するようになっている	利用者は地元出身が殆どで、利用者同士で友人や知人の思い出話が多く、ケアの情報として職員間で共有している。また、馴染みの理美容院などは訪問理美容として継続して支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況に合わせて、全員でできるレク、ゲームを行い孤立を防いでいる		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・ご家族が困難な手続きなどは必要に応じて行っている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者さんとの会話の中で意向・希望を察知し、ケアへつなげる。困難な場合、家族の意向を踏まえたうえで、職員同士の話し合い、検討しケアにつなげる。	七夕では、短冊に利用者がそれぞれ希望を書いて掲示するなど、日常生活の中で、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネからの情報収集、入居後、本人・ご家族からの聞き取りを行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自室で休みたい方、調べもの、読み物などをされたい方等、ご本人の思いを都度お伺いしている。ケース記録、連絡ノートで情報の共有を図る		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングでの意見交換を行い、ケア方法に変更があった場合はご家族へ報告、了承得たうえで、ケアプランに反映させている	居室毎に担当者がおり、月1回のミーティングで、全体でモニタリングをして、主治医や看護師の受診記録なども含めて、カンファレンスして、現状に即した介護計画を作成している。見直しは半年で行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づき、出来事を、ケース記録などで情報共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ミーティングを行う際、支援方法を話しあっている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が希望し、利用・参加できるものがあれば支援することをご家族、本人へ伝えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者各々の状態を把握し、変化があれば受診対応している。都度、ご家族に報告し、希望される治療があれば医師に相談する	協力医療機関に月1回定期的に職員同行で、受診している。インフルエンザ予防接種やコロナウイルス感染症対策ワクチン接種などは、主治医と連携して訪問診療で対応しており、24時間対応の適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師設置無し		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	町内に病院は1つしかないため、良好な関係を維持できるよう、日ごろから入居者の状態の相談はこまめに行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご家族へ病院受診報告などの際、状態の変化があれば伝えるとともに、利用できる町内の資源を含め、今後の予測のお話をさせていただくこともある。	重度化や終末期の対応は、入居契約時に説明しており、看取りは対応していないが、重度化した場合は、他施設や病院への対応を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の避難訓練実施の際、不定期ではあるが、救命救助かつどうの指導を、消防職員に依頼し行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害避難訓練時はもちろん、介護施設の自然被害のニュース報道があった時には、話し合い、共有している。	災害の避難訓練は、隣接する施設と合同で定期的に行っていたが、コロナウイルス感染症対策の為、最近実施していなかった。備品は整備しているが備蓄は未整備である。	災害の避難訓練は、地域との協力体制で、定期的実施する事。また、備蓄も至急に整備して、自然災害BCPの作成と感染症対策のBCPも作成して、訓練することを期待する。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導などでは、羞恥心に配慮し他の入居者さんに聞こえないように心掛けている。	人格の尊重やプライバシーについては、接遇の研修会を開催して、人格やプライバシーを尊重した声掛けなど指導して学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中でみられる意思、希望を尊重し各生活動作に対する声掛けも、自己決定を促すよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	就寝、起床、入浴など、声掛けに拒否がある場合には順番をずらすなど、工夫し、支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの色、サイズ感等、できるだけ本人の嗜好に沿えるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の好みについては可能な限り対応している。嚥む力、嚥下能力が弱っている方には、刻み食、水分にとろみをつけるなどで対応している	食事は、献立も含めて全て職員が担当し、食材は地元の商店で仕入れて、手作りの味を提供している。行事食として、利用者希望のかつ井の出前なども行っており、楽しみな食事の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々、記録をつけ、個別に支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身でできない方は、介助しながら、毎食後行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時間を把握し、誘導を行っている。	尿意のある利用者が殆どだが、職員は、個人別の排泄記録簿を見て、職員間で共有し、時間や仕草を見て声掛け誘導して、トイレでの自立した排泄に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維、水分量を個別に調整する。また、毎日の体操などで便秘予防を心掛けている		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	1人ずつの入浴はもちろん、タイミングについても可能な限り、個別の好みに対応している。	浴槽はユニット型で、窓がある。入浴は週2回で午後からで、入浴剤など使用して、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員の都合で、居室にいることを制限などはせず自由に行き来してもらっている。安眠できるよう、温度調節など気を配っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報の共有と理解。職員で管理をすることで誤飲の予防を徹底。変更があった際には、服薬後の体調観察に努める		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な家事、畑仕事など各入居者さんの得意とするとところを分担して行ってもらっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、外へ散歩やドライブに出かけたり職員と車で買い物へ行くなどの支援を行っている	日常的に天気の良い日は、散歩や外気浴を行っている。職員と車で買い物や江差・乙部町などお花見のドライブなど、少人数だが可能な限り外出の支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の買い物や、一緒にすることがあった際には見守りながら支払ってもらうなどの支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば対応する。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節の花や、行事・イベントなどの飾りを入居者さんと作成、時期になったらホール内から見える畑で野菜を育てている	共用空間の居間、食堂は広くゆったりしており、採光や風通しもよく、温度や湿度も管理しており、床暖房で、整理整頓され清潔感を感じる。七夕の短冊など季節の飾り物が多く、一年分の作品があり、季節の行事が楽しみである。また、外の菜園でのトマトやきゅうり、大根、スイカなどの成長を見るのも利用者の楽しみだ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席位置、食卓椅子とは別にソファの設置、雑誌を用意するなど、トラブルを予防しつつ、心地よく過ごしてもらえるよう工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、使い慣れた家具、小物類をもってきてもらうよう案内をしている。	居室には、収納タンスとベット、棚が設置しており、配慮している。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のネームプレート、トイレなどの場所の表示をする。車いす、歩行器などの動線を確保する		